

2021年10月6日

パルシステム生産者・消費者協議会

事務局 田中伸宙

## 第10回青果フォーラム報告

- (1) 第10回青果フォーラムが10月6日(水)14:00～、zoomを使用しオンラインにて開催しました。参加産地数は35産地59名、パルシステム関係者49名、オブザーバーとして協力会13名、計121名(101アカウント)の参加がありました。
- (2) 野菜部会の埴部会長(葉菜野果産直)の進行により、冒頭で大津代表幹事(無茶々園)より開会挨拶がありました。9月14日に産直委員会と共催した「みどりの食料システム戦略学習会」で今後の方針とパルシステムの産直の取り組みとの親和性について触れ、この取り組みが日本農業のスタンダードになっていくだろう、と話されました。
- (3) 今回は「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」生産局長賞受賞記念講演として澤村生産者幹事(水俣不知火ネットワーク)より講演がありました。水俣病患者の運動支援活動から始まった組織の成り立ち、これまでのあゆみ、栽培計画、地域内の資材を活用した堆肥作り、これからの課題などについて話されました。有機農業に取り組むうえでの苦労として「周囲の(慣行農業)生産者への配慮が一番大変」と語られました。また、パルシステムへ「消費者の理解があつて地域と農業を維持できるので、今後価値があるものをどのように作っていくかを一緒に考えていきたい」とメッセージが送られました。
- (4) 次に「産直産地の現状と今後に向けて」と題し、5産地の生産者から報告がされました。まず初めに、富良野青果センターの村上代表より「2021年大干ばつによる被害報告」として野菜への影響、出荷計画の変更などが発生、「農業資材等の値上がりなど楽観できない状況下でも生産者の努力をパルシステムへ伝えていこう」と参加者へ呼びかけました。次に、長有研の酒井代表からは8月の大雨被害の報告、最近の残暑による農作物の生育不良と今後の影響などについて報告がありました。続いて、佐原農産物供給センターの土方氏よりさつまいもの「基ぐされ病」・里芋の「疫病」発生の概要について報告があり、発生状況と農業事務所からの指導、産地ででの対策について報告され、内容を共有しました。4番目には大紀コープファームの王隠堂取締役より「農業の継続と地域連携」として、AI技術の導入など生産環境を造り変える取り組み、地域まるごと産直システムなどの地域社会の再創生、体験・交流拠点の整備など多様な生活者を受け入れて地域のコミュニティーを作る取り組みなどについて報告されました。最後にJAつくば市谷田部産直部会の小川副代表幹事より、みどりの食料システム戦略の概要、生産者視点からの懸念事項について紹介し、「パルシステムの産直産地としても引き続き環境保全型農業を継続していこう」、と呼びかけられました。
- (5) まとめとして、渡部副代表幹事より「今回報告された内容を組合員に伝えていきたい。顔を合わせて交流ができるときまで、オンラインでもつながっていききたい」と話され、閉会となりました。



### 産地の現状

今年の北海道の天気は異常だらけ。

1、異常な高温(最高記録の更新)

2、5月の長雨・低温・日照不足

3、6月下旬からの大干ばつ

テレビなどでは放送されない実態  
(最近取り上げられてきた)

